

# ベビーカー使用者の公共交通機関利用におけるニーズ

## The circumstances of baby stroller use on public transportation

安心院 朗子  
(Akiko AJIMI)

### Abstract:

The purpose is to clarify the circumstances of baby stroller use on trains and buses. Mothers living in the Tokyo metropolitan area that use baby strollers were asked to fill out a self-administered anonymous questionnaire. Baby stroller users were physical obstacles to others when they use trains and buses. Moreover, the users felt guilty toward the passengers around them.

**キーワード**：ベビーカー、状況、公共交通機関

**Keywords**：baby stroller, the circumstances, public transportation

### 1. 緒言

乗り物交通上あるいは道路交通上において、物理的バリアや心理的バリアなどが原因となって移動に支障をきたす者がいる。具体的には、肢体不自由者、視覚障害者、知的障害者、高齢者、妊婦、ベビーカーを使用する者、幼児などである。それぞれの移動の問題を整理し、バリアフリー化を推進していかなければならない。

特に子育て中の保護者の外出に対しては早急に改善すべきである。核家族化が進み子育て中の保護者が孤立しやすいという問題がある。その問題は年々増加傾向にある子どもへの虐待、保護者の精神健康の損失につながりかねない。保護者が積極的に外出し、さまざまな人と触れ合う機会を増やすことが重要である。

松橋・出井・大原・藤岡(2010)<sup>1)</sup>は、子育て中の保護者は「子どもを抱っこし続けるのはつらい」、「荷物が多い」などの理由からベビーカーを頻繁に利用していること、外出時にベビーカーを利用する人ほど、外出頻度が高い傾

向があることを明らかにしている。しかし、一般市民に対するベビーカー使用者の鉄道利用に対する意識調査<sup>2)</sup>によると、ベビーカー使用者に対して不満があると回答した者が全体の6割を占めていることが明らかにされている。周りの人からネガティブにみられているという意識があれば、保護者はベビーカーを用いた外出を控えてしまうことが推測される。鉄道の車内などのある限られたスペースを一般市民と共有する際には、ベビーカー使用に対する周囲からの理解が得られづらく、ベビーカー使用者はより外出を控えることになる。

また、大森・谷口・眞鍋・寺内・青野(2011)<sup>3)</sup>は、「電車やバス等の公共交通機関が子ども連れの移動に配慮されていない」と回答している保護者が多くいることを明らかにしている。加えて、保護者が公共交通機関を利用する際に使いにくさがあることを述べている研究はいくつかある<sup>1), 4)</sup>。しかし、ベビーカー使用者の公共交通機関利用時の具体的なニーズやベビーカー

を用いて公共交通機関を利用することについての利用者の思いについては明確化されていない。

そこで本稿では、ベビーカー使用者の公共交通機関利用時における問題点を整理するための一つの資料とするために、東京都内に在住するベビーカー使用者における公共交通機関（鉄道およびバス）利用の状況およびニーズについて明らかにする。また、ベビーカー使用者が周囲に対して迷惑になっているという思いがあるのかについて明確にする。

## 2. 方法

### 1) 調査対象者

東京都内に在住しておりベビーカーを使用している母親（131名）を対象とした。ベビーカーを使用している子どもの年齢は、0歳が23%（30名）、1歳が21%（28名）、2歳が38%（50名）、3歳が16%（21名）、4歳が2%（2名）であった。ベビーカーをほぼ毎日使用している者が23%（31名）、週に2～3回が25%（32名）、週に1回が25%（33名）、月に1回が26%（34名）、無回答が1%（1名）であった。

### 2) 調査手続き

本調査では自記式無記名式の質問紙調査によってデータを収集した。東京都内にある幼稚園（3園）に協力してもらい、日常的にベビーカーを使用する母親に自記式無記名式の質問紙を配布し、記入した質問紙は各園で収集し郵送してもらった。調査の実施期間は2012年8月から10月であった。

### 3) 調査項目

質問は「回答者の属性」2項目、「鉄道の利用状況とニーズ」4項目、「バスの利用状況とニーズ」4項目、「ベビーカーを用いて鉄道およびバスを利用する際の保護者の思い」4項目の計14項目であった。

## 3. 結果

### 1) 鉄道およびバス利用時に困ること

ベビーカーを用いて鉄道およびバスを利用したことがあるかどうかについて尋ねたところ、鉄道を利用したことがあると回答した者が95%（131名中125名）、バスは79%（無回答を除いた128名中101名）であった。

電車、バスそれぞれを利用したことがあると回答した者に対して、利用時に困ることがあるかどうかについて選択式で尋ねた結果をそれぞれ表1、表2に示した。鉄道、バス利用時において、「ベビーカーを持ち上げなければならない」ことについて困ると回答した者が最も多かった。

### 2) 鉄道およびバスを利用しやすくなるための考え

鉄道およびバス利用におけるベビーカー使用者のニーズについて選択式で尋ねた結果をそれぞれ表3、表4に示した。鉄道ではエレベータを設置する（88%）、段差をなくす（56%）、バスでは乗降口の段差をなくす（69%）などと物理的バリアの解消についてのニーズが多くみられた。

表1. 鉄道を利用したときに困ること（複数回答）

ベビーカーを持ち上げなければならない	91%（114名）
電車とホームの間に隙間に車輪が引っ掛かりそうになる	57%（71名）
電車を利用する際のルールがわからない	56%（70名）
人と接触しそうになる	45%（59名）
駅構内に利用できるトイレがない	37%（46名）
その他	16%（20名）

（%の母数はベビーカーを使用して鉄道を利用したことがあると回答した125名）

表2. バスを利用したときに困ること（複数回答）

ベビーカーを持ち上げなければならない	88%（87名）
人と接触しそうになる	56%（55名）
バスを利用する際のルールがわからない	44%（44名）
バスの停留所に屋根がないため、バスが到着するまで雨宿り や日よけができない	19%（19名）
ベビーカーを固定できない	17%（17名）
その他	17%（17名）

（%の母数はベビーカーを使用してバスを利用したことがあると回答した99名）

表3. 鉄道を利用しやすくなるための考え（複数回答）

エレベータを設置する	88%（112名）
段差をなくす	56%（71名）
車両のなかにベビーカー等を置くスペースを設置する	53%（67名）
ホームと電車の隙間をなくす	47%（60名）
その他	18%（23名）

（%の母数はベビーカーを使用して電車を利用したことがあると回答した者のうち無回答を除いた127名）

表4. バスを利用しやすくなるための考え（複数回答）

乗降口の段差をなくす	69%（79名）
車内にベビーカー使用者を優先する場所を設置する	50%（57名）
乗車時に乗務員が援助する	34%（39名）
停留所に雨よけ（日よけ）を設ける	27%（31名）
ベビーカー用固定ロープを設ける	10%（13名）
その他	30%（38名）

（%の母数はベビーカーを使用してバスを利用したことがあると回答した者のうち無回答を除いた115名）

### 3) ベビーカーを使用して公共交通機関利用時 する際の保護者の思い

#### i) : 公共交通機関利用時において迷惑になっ ていると感じているのか

ベビーカーを使用して鉄道、バスを利用することに対して周りに迷惑になっていると思うかどうかについて「非常にそう思う」から「全く思わない」までの4件法で尋ねた。鉄道においては「非常にそう思う」、「少し思う」を合わせると83%、バスにおいては79%であり、約8割の者が迷惑になっていると感じていることを確認した（表5）。

「非常にそう思う」「少し思う」と回答した者に対して、迷惑になっていると感じる理由を自由回答式で尋ねた（表6、表7）。鉄道、バスと

もに「車内にベビーカーがあると周りの人の邪魔だと思われるのではないかと感じる」が9割以上と最も多かった（鉄道98%、バス95%）。それ以外に、「ベビーカーが人にぶつかりそうになる」、「周りの人に嫌な顔をされる」、「車内の乗り降りに時間がかかる」などが挙げられた。

周りに迷惑になっていると感じる理由で最も多かった「車内にベビーカーがあると周りの人に邪魔だと思われるのではないかと感じる」の回答を、さらに状況別に分析した（表6、表7）。鉄道では車内が混雑している時に周りに迷惑をかけていると感じており、バスではバス車内が狭いため、ベビーカーを車内に持ち込むこと自体が問題であると認識している者が多かった。

表5. 鉄道、バス利用時において周りの人の迷惑になっていると感じているかについて

	鉄道	バス
非常にそう思う	34% (43名)	32% (32名)
少しそう思う	49% (60名)	47% (48名)
ほとんど思わない	15% (19名)	17% (17名)
全く思わない	0	2% (2名)
無回答	2% (3名)	2% (2名)

(%の母数は鉄道を利用している者125名、バスを利用している者101名)

表6. 鉄道利用時に周りに迷惑になっていると感じる理由

車内にベビーカーがあると周りの人に邪魔だと思われるのではないかと感じる	98% (101名)
〈「車内にベビーカーがあると周りの人に邪魔だと思われるのではないかと感じる」と回答した内容の状況別割合〉	
車内が混雑している時	54% (56名)
ベビーカーが車内に置いてあること自体	17% (17名)
ベビーカーをたたむことができない時	15% (15名)
乗降者の近くにベビーカーを置いた時	9% (9名)
ベビーカーが一車両に数台ある時	4% (4名)
ベビーカーが人にぶつかる (ぶつかりそうになる)	13% (13名)
周りの人に嫌な顔をされる	11% (11名)
乗り降りに時間がかかる	4% (4名)
エレベータでの場所をとる	2% (2名)
文句を言われる	2% (2名)

(%の母数は鉄道利用時に周りに迷惑になっていると感じることが「少しある」「とてもある」と回答した103名) (複数回答)

表7. バス利用時に周りに迷惑になっていると感じる理由

車内にベビーカーがあると周りの人に邪魔だと思われるのではないかと感じる	95% (76名)
〈「車内にベビーカーがあると周りの人に邪魔だと思われるのではないかと感じる」と回答した内容の状況別割合〉	
ベビーカーが車内に置いてあること自体	40% (32名)
車内が混雑している時	31% (25名)
乗降者や通路移動者に邪魔だと思われると感じる	13% (10名)
ベビーカーをたたむことができない時	10% (8名)
ベビーカーが一車両に数台ある時	1% (1名)
ベビーカーが人にぶつかる (ぶつかりそうになる)	11% (9名)
乗り降りに時間がかかる	10% (8名)
周りの人に嫌な顔をされた	6% (5名)

(%の母数はバス利用時に周りに迷惑になっていると感じることが「少しある」「とてもある」と回答した80名) (複数回答)

## ii)：周囲に迷惑をかけないようにする工夫

鉄道およびバス利用時に周りに迷惑をかけないためにどのような工夫をしているのかについて尋ねた（表8）。鉄道、バスともに混雑する時間帯に公共交通機関を利用しない（鉄道77%、バス40%）が最も多かった。鉄道、バスともに対策をしていないと回答した者はほとんどいなかった。鉄道を利用する数名の意見に、「混まない時間帯を選択して車両に乗っていても、急に混雑し始めてしまうことがあり、その時はとても肩身の狭い思いになる」があった。また、「混雑時は避けたいが、仕事や子どもの病院への通院など混雑時を避けられない時がある」という意見があった。

## 4. 考察

本調査より、東京都在住の日頃ベビーカーを使用している者はベビーカーを用いて鉄道およびバスを利用している者が多い（電車95%、バス79%）ことが確認された。電車を使用したことがあるベビーカー使用者が困ることとして「ベビーカーを持ち上げなければならない」91%（114名）が最も多く、ついで「鉄道においては電車とホームの間の隙間に車輪が引っ掛かりそうになる」57%（71名）が挙げられた。2006年に施行されたバリアフリー新法により、公共交通機関における物理的バリアフリーに向けての対策は進められている。しかし、2013年7月22日にさいたま市のJR南浦和駅で、電車とホームの間に成人女性が転落したことが報道されており、電車とホームの隙間のバリアは十分に解消されていないと言える。成人女性が転落するのであれば、ベビーカーの車輪だけで

なく、乳幼児が転落する恐れがある。電車の乗り降りが安全に行えるよう、電車とホームの隙間の改善は早急に進めていく必要があると考えられる。

鉄道ではエレベータを設置する（88%）、段差をなくす（56%）、バスでは乗降口の段差をなくす（69%）などと物理的バリアの解消についてのニーズが多くみられた。安心院・徳田・水野（2010）<sup>5)</sup>は歩行補助車使用者の多くは、公共交通機関利用時に歩行補助車を持ち上げなければならないことを困と感じていることを明らかにしている。バリアフリー新法の改正により公共交通機関のバリアフリー化は進められているはあるが、何らかの機器を用いて移動する者の中には、物理的バリアを感じている者が多く、バリアフリーが十分ではない現状があると言える。母親はベビーカーに子どもを乗せて、さらに荷物を持っていることから、母親が一人でベビーカーを持ち上げるのは困難である。階段を使わざるを得ない場合は、バランスを崩しやすく母子ともに非常に危険である。交通弱者が安全に公共交通機関を利用するためには、何らかの機器を用いて移動する際の動線を踏まえたバリアフリー環境の整備が求められる。

ベビーカーを使用して鉄道およびバスを利用することに対して、周囲に迷惑になっていると思っている者は鉄道使用者の83%、バス使用者の79%と多かった。一般市民のベビーカー使用者の鉄道利用についての意識調査<sup>2)</sup>より、ベビーカー使用者に対して不満があると考えている一般市民がいることが明らかにされている。ベビーカー使用者は周りからどう思われている。

表8. 鉄道およびバス利用時に周りに迷惑をかけないための工夫

	鉄道	バス
ラッシュの時間帯を避ける	77%（79名）	40%（32名）
小型のベビーカーを使用する	8%（10名）	13%（10名）
特にない	5%（6名）	8%（6名）
その他	24%（25名）	24%（19名）

（%の母数は周りに迷惑になっていると感じることが「少しある」「とてもある」と回答した鉄道103名、バス80名）（複数回答）



いるのかについて感じ取っており、周りに迷惑になっていると思う者が多かったのではないかと考えられる。一方で、堀口・村井（2012）<sup>6)</sup>はベビーカーでの電車利用についての一般市民の意見として、「ベビーカーをできるだけたんでほしいが、場合によっては、ベビーカーをたたまずに乗車してもかまわない」と回答している者が多いことを確認している。一般市民がベビーカー使用者のおかれている状況について理解を示してる一面があることをベビーカー使用者は認識しておらず、周りに対して過度に「迷惑になっている」と思い込んでしまっている可能性もあると考えられる。

周りに迷惑になっていると感じている者は、「車内にベビーカーがあると周りの人に邪魔だと思われているのではないかと感じる」との回答が多く、「ベビーカーをたためないとき」に周りに迷惑をかけていると感じる者が少なかった。また、ベビーカー使用者は混雑を避けるように努力していても、急に混雑してしまったり、都合によっては混雑時を避けられないケースもあった。電車およびバスを使用する際に困ることとして、電車やバスではベビーカーをたたむべきであるのか、車内のどこにベビーカーを置くべきであるのかがわからないなどの「電車（バス）を利用する際のルールがわからない」ことが挙げられていた。ベビーカー使用者のなかにはどのように利用すべきなのかわからないままで公共交通機関を利用している者がいることが明らかになった。

バリアフリー新法により、ベビーカーは高齢者や障害者と同様にバリアフリーの対象とされているが本調査を行った時点においては、ガイドラインに具体的な運用基準は明示されておらず、使用においては事業者の判断に委ねられていた<sup>7)</sup>。首都圏内のJRや私鉄各社はベビーカーを「自己責任で開いたままでよい」としており、必ずしもベビーカーを車内でたたまなくてよいとしている。瓜生ら（2012）<sup>2)</sup>は一般市民が「ベビーカーを広げて乗って良いというルールがあることを知らなかった」、「混雑時もベビーカーを広げたまま乗車してもよいと思っていた」という異なった意見があったことを明らか

にしており、一般市民においてもベビーカー使用に関するルールが明確化されていないことが問題であると指摘している。

ベビーカー使用者が周りに迷惑にならないように配慮することは重要であるが、荷物で手がふさがっていてベビーカーをたためなかったり、都合があつて混雑時に乗車するなどの場合には、ベビーカーをたたまなくてよい、優先スペースにベビーカーを置いてよいとするベビーカー使用者への配慮したルールを明確に示すことが重要である。2014年3月に国土交通省より「公共機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」の決定事項が公表されている。明確化されたルールは、ベビーカー購入時にベビーカーの使い方だけでなく、ベビーカー使用におけるマナーやルールについて販売者から使用者へ伝えていく機会があるとよい。また、地域子育て支援事業の一つとして行われている子育て親子交流などの会を利用して、ベビーカー使用時の公共交通機関の利用について伝えていくことは有効であると考えられる。さらにベビーカー使用者だけでなく、一般市民に対してベビーカー使用のルールを示し、ベビーカー使用に対する理解を促す必要があると考えられる。

「ベビーカーの使用をあきらめた」と回答した者がいた（鉄道21%，103名中27名，バス50%，80名中40名）。東京都内の中・長距離の移動は公共交通機関が主である。子どもが数名いる場合や、荷物が多いなどの理由で、「ベビーカーがあるから外出できる」者は少くない。公共交通機関を利用できない、利用をあきらめる場合、子ども、子育て中の保護者の外出機会が減少する可能性がある。

一般市民とベビーカー使用者が公共交通機関をスムーズに利用するために、利用する際の公共交通機関のマナーについて整理し、一般市民、ベビーカー使用者に対して、ベビーカーの使用方法について呼びかけを実施する必要がある。また、学校教育の中に公共交通機関マナーについて学習をする機会を設け、早期からの理解教育を行うとよいと考えられる。

**【参考文献】**

- 1) 松橋圭子、出井真純、大原一興、藤岡泰宏、乳幼児同行者による駅利用に関する研究その1：外出行動の特性からみた駅のあり方について（駅空間、建築計画Ⅰ）、学術講演梗概集、389-390、（2010）
- 2) 瓜生朋恵、西本由紀子、来海素存、梶木典子、上野勝代、鉄道内におけるベビーカー利用に対する乗客の意識に関する研究、平成24年度日本建築学会近畿支部研究発表会、577-580、（2012）
- 3) 大森宣暁、谷口綾子、真鍋陸太郎、寺内義典、青野貞泰、子育て中の女性の外出行動とバリアに対する意識に関する研究—首都圏在住の乳幼児を持つ母親を対象として—、日本都市計画学会都市計画論文集、46（3）、259-264、（2011）
- 4) 高柳百合子、赤石達生、子どもの外出行動の活発化に向けた保護者の防犯安心感に寄与する街路の空間構成要素、日本都市計画学会都市計画論文集、46（3）、949-954、（2011）
- 5) 安心院朗子、徳田克己、水野智美、歩行補助車を使用している高齢者の外出状況と交通上の課題、IATSS Review、35（2）、131-138、（2010）
- 6) 堀口莉奈、村井裕樹、路面電車と駅の使いやすさに対する利用者意識に関する研究、日本建築学会中国支部研究報告集、35、601-604（2012）
- 7) 福田智雄、子育て中の家族に対する交通バリアフリー対策についての調査研究、国際学院埼玉短期大学研究紀要、28、97-101、（2007）